

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10月ユーロ圏消費者物価(速報)

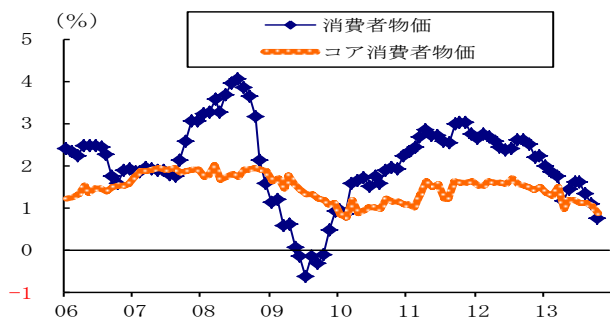
発表日：2013年11月1日(金)

～デフレの足音、高まる利下げ観測～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

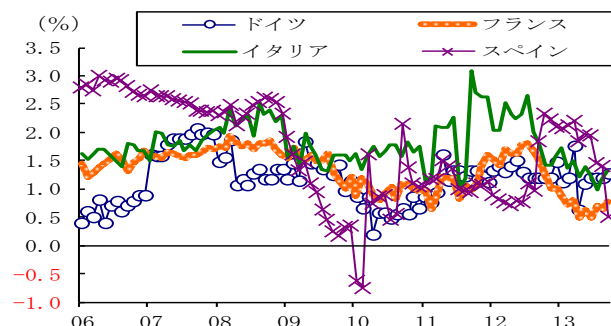
- 2013年10月のユーロ圏の消費者物価の速報値（EU統一基準）は前年比+0.7%と前月（同+1.1%）から一段と上昇率が縮小。事前のコンセンサス予想（同+1.1%）を大きく下回った。国別・費目別の内訳は11月15日発表の確報値の結果を待つ必要があるが、エネルギー価格の下落幅が拡大（前月：同▲0.9%→今月：同▲1.7%）しただけでなく、コア物価（変動の大きいエネルギー・食料・アルコール・タバコを除く）の上昇率が予想外に縮小したことが効いている（同+1.0%→同+0.8%）。
- 公表済みの国別の速報結果も、ドイツ（同+1.6%→同+1.3%）、スペイン（同+0.5%→同+0.1%）、イタリア（同+0.9%→同+0.7%）が揃って上昇率が縮小。前月にコア物価の上昇率が縮小した主因は昨年9月のスペインのVAT増税の影響剥落だったが、今月は特筆すべき特殊要因が見当たらない。イタリアに至っては10月1日からVAT税率が引き上げられたが、物価上昇率が鈍化した。
- 域内の物価上昇圧力は経済停滞が続く周辺国ばかりか、労働需給が逼迫気味のドイツですら乏しい。同日発表された失業率が過去最悪で高止まりしているほか、茲許のユーロ高基調で輸出に依存した脆弱な景気回復が腰折れする懸念もある。市場参加者の中には近くECBが追加利下げに踏み切るとの観測が俄かに高まっている。ただ、マイナスの預金金利に近づく次の利下げに対してはECB理事会内で意見対立が続いている。米国の財政協議を巡る不透明感が続くなかで、追加利下げでユーロ高基調を食い止めるのは難しい。銀行の融資基準緩和や景気の底入れを示唆する指標も散見される。一段の物価下振れリスクを確認するまでは、ECBは警戒姿勢を保ちながらも様子見を続けると予想する。

■ユーロ圏の消費者物価（前年比）



出所：Eurostat

■主要国のコア消費者物価（前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2012				2013									
	4Q	1Q	2Q	3Q	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
消費者物価（前期比）	0.4	0.4	0.1	0.5	0.2	0.1	-0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	-	
消費者物価（前年比）	2.3	1.9	1.4	1.3	1.8	1.7	1.2	1.4	1.6	1.6	1.3	1.1	0.7	
コア消費者物価（前期比）	1.5	1.4	1.1	1.1	1.3	1.5	1.0	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	0.8	
食料品（前年比）	2.9	2.6	3.0	2.8	2.4	2.4	2.7	3.2	3.2	3.3	3.0	2.2	-	
アルコール（前年比）	2.8	2.6	2.8	2.6	2.7	2.6	2.8	2.6	2.9	2.7	2.5	2.5	-	
タバコ（前年比）	4.4	4.6	3.9	5.2	4.6	4.7	4.1	3.8	3.7	4.9	5.4	5.4	-	
エネルギー（前年比）	6.3	3.2	0.3	0.1	3.9	1.7	-0.4	-0.2	1.6	1.6	-0.3	-0.9	-1.7	

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。